

事例番号：240106

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度

原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

初産婦。妊娠32週と34週に破水感のため入院となり、抗菌薬、リトドリン塩酸塩の投与後、羊水流出はみられず、腹部緊満感が改善したため退院となった。妊娠39週6日、妊産婦は7分おきの痛みと茶色の性器出血のため入院となり、入院後に陣痛開始と判断された。入院翌日、骨盤エックス線撮影の結果と胎児推定体重より、児頭骨盤不均衡は否定的であると判断され、陣痛発来から21時間後、微弱陣痛による遷延分娩のためオキシトシンによる陣痛促進が行われた。吸引分娩、クリステレル胎児圧出法が行われ、児が娩出された。

児の在胎週数は40週0日で、体重は3900g台であった。臍帯血ガス分析は行われなかった。アプガースコアは、生後1分8点、生後5分9点であった。退院後の生後9日の朝から左上下肢のぴくつきと全身性の痙攣発作がみられ、脳室内出血、急性脳炎、髄膜炎疑いで入院となり、ジアゼパム、フェノバルビタールナトリウム、抗菌薬が投与された。38.5℃～38.7℃の発熱があり、生後10日に医師はヘルペス感染を含めた急性脳炎、髄膜炎を疑い、アシクロビルを追加で投与した後、高次医療機関へ児を搬送した。高次医療機関入院時の血液検査は、白血球数 $121 \times 10^2 / \mu\text{L}$ 、CRP 0.2 mg/dL、単純ヘルペスウイルスIgG 40.3、単純ヘルペス

ウイルス I g M 0. 7 0、単純ヘルペスウイルス-DNA（血中、髄液中）陰性で、感染徴候はないと判断され、アシクロビルとその他の抗菌薬は中止された。入院時の頭部MRIで右前頭葉皮質、皮質下白質から内包後脚、外包、左前前頭葉皮質にかけて高信号を示す領域を認め、大脳浮腫が認められた。右頭頂葉、前頭葉の脳溝はやや不明瞭な印象であった。生後25日の頭部MRIで脳萎縮が目立つようになり、脳波も平坦化した。最終的に発症1ヵ月後のペア血清による診断で単純ヘルペスウイルス脳炎と診断された。分娩後の妊産婦の血液検査で、単純ヘルペスウイルス I g G 9 2. 9、I g M 1. 1 2 と弱陽性であり、周産期に初感染があったことが疑われた。分娩後2ヶ月の内診および膣壁と外陰部の細胞診でヘルペス感染を示唆する所見はみられなかった。

本事例は、病院における事例であり、産婦人科専門医1名、小児科医2名、助産師4名、看護師1名が関わった。

2. 脳性麻痺発症の原因

本事例の脳性麻痺発症の原因は、妊産婦にヘルペス感染の既往はなく、妊娠中から児娩出までの間もヘルペス感染の所見はみられなかったが、発症後の児および妊産婦の経過から検討すると、産道感染により新生児がヘルペスに感染し、ヘルペス脳炎をきたしたことでありと考えられる。

3. 臨床経過に関する医学的評価

妊娠中の管理は一般的である。

分娩のための入院後、胎児心拍数モニタリングを行ったことは一般的である。入院翌日に分娩が約8時間停止していたが、この間に医療介入を行わなかったことについては、胎児心拍数が良好であれば経過観察をすることが一

一般的であるという意見と、医療介入を行わず経過観察したことは一般的ではないという意見があり、賛否両論がある。骨盤エックス線撮影を行ったことは選択肢のひとつである。オキシトシンによる陣痛促進を開始したことは一般的であるが、投与方法は基準から逸脱している。分娩第Ⅱ期遷延の状況で、胎児心拍数に異常がないことを確認し、児頭の下降をみた上で吸引分娩を行ったことは選択肢のひとつである。診療録に吸引分娩時の吸引圧や回数、クリステレル胎児圧出法開始時の児頭の位置を記載しなかったことは一般的ではない。

新生児の管理は一般的である。ヘルペス感染を含めた急性脳炎、髄膜炎を疑い、高次医療機関に搬送したことは適確である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) オキシトシンの使用方法について

オキシトシンによる分娩誘発・陣痛促進を行う際には、日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会が取りまとめた「子宮収縮薬による陣痛誘発・陣痛促進に際しての留意点」に則した使用法が勧められる。

(2) 分娩時の記録について

診療録に吸引分娩の吸引圧や回数、クリステレル胎児圧出法の回数、クリステレル胎児圧出法を開始した際の児頭の位置について記載がなかった。急速遂娩の施行の根拠や内診所見等については詳細に記載することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

特になし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

特になし。

(2) 国・地方自治体に対して

特になし。